

2019年度第1回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2019年9月27日(金)10:00~12:00
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
4. 審議概要:
 - (1)平成30年度第4回契約監視委員会議事要旨及び契約監視委員会活動まとめの報告
事務局より「平成30年度第4回契約監視委員会議事要旨」及び「平成30年度契約監視委員会活動まとめ」について報告があり、了承された。
 - (2)2019年度調達等合理化計画の第1四半期実施状況の報告
調達部より第1四半期分の随意契約や一者応札・応募の各契約実績と前年度との比較及び一者応札・応募の低減に向けた更なる取組等について説明があった。
委員からは、新規参入企業獲得に向けたポスターや参入ガイド作成については、どのような内容で企業へ提示しているのかとの質問があり、ポスターについては一般的な内容で分かり易いものとしており、参入ガイドについては見本市での配付を想定し、特定の技術に特化したものとしているとの説明が担当者よりなされた。
 - (3)2019年度第1四半期に新規に締結した契約の点検
2019年度第1四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったが一者応札・応募となったものを中心に点検を受けた。その結果、特に問題となる契約はなかったが「角田宇宙センター管理渉外等業務」について、外注化したことによりJAXA 人件費を含みどの程度のコスト削減ができたのかを別途データで示すこととされた。また、随意契約適用条項について、具体的事例に合わせた条項の見直しあるいは解釈について調達部で検討し、結果がまとまり次第、委員会で報告することとされた。(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)
 - (4)その他
次回の委員会は、翌年1月16日に開催することとした。

第1回 2019年9月27日

競争性のない随意契約			2件	① 平成31年度 総合開発推進棟他セキュリティシステムの賃貸借及び保守点検(レンタル) ② 追跡管制局に関する火災保険等の付保
競争入札	一般競争	価格評価	3件	③ 平成31年度調布Pnetネットワーク運用管理業務、平成31年度調布Pnetセキュリティ管理・利用者支援等業務、平成31年度調布Pnet総合支援業務の3契約 ④ 平成31～32年度角田宇宙センター管理渉外等業務 ⑤ 2019年度 種子島宇宙センター液化フロンの購入

主な質疑等は以下のとおり。

① 平成31年度 総合開発推進棟他セキュリティシステムの賃貸借及び保守点検(レンタル)[競争性のない随意契約]

本件は筑波宇宙センターにおける機械警備のためにセキュリティシステムの賃貸借及び保守点検を行うものである。契約にあたりシステム買い取りと現行の賃貸借継続にかかる経費を今後7年間で比較した結果、現行の賃貸借を継続する方が安価であったため、「随意契約によれば、時価に比べ著しく有利な価格をもって契約をすることができる見込みがあるとき(契約事務実施要領第69条 1項(タ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、買い取りにするか賃貸借にするかの比較検討は何年おきに行っているのかとの質問があり、担当者からは見直し時期については特に決まったものはないが、今後は数年おきに時期を決めるなどして比較検討を行いたいとの説明がなされた。

② 追跡管制局に関する火災保険等の付保[競争性のない随意契約]

本件は海外に設置している4か所の追跡管制局に対して、火災保険の付保を行うものであり、3回連続して同一業者による一者応札が続いていたため、「機構が過去に複数回締結した契約と実質的に同じ仕様の案件であって、過去の契約を

締結した際に一者応札又は一者応募が続いているとき」(契約事務実施要領第 69 条 1 項(テ))を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、海外物件を扱う国内保険会社が少なくなっている状況において、コスト比較をしたうえで海外保険会社との随意契約の可能性についても検討したほうが良いとの意見があり、担当者からは追跡管制局ごとの契約になると事務処理コストが増す懸念もあるが、意見を踏まえ最適な契約方法を検討したい旨の説明がなされた。

また、委員から随意契約適用条項について、「特定の販売業者以外では提供することのできない物件の買い入れ、借り入れを行うとき(同要領第 69 条 1 項(カ)項)」のほうが実態としては近いものがあるので、本条項を準用して本件のような役務サービスに適用するようなことはできないのかとの質問があり、具体的事例に合わせた随意契約条項の見直しあるいは解釈について調達部で検討し、結果がまとめ次第、委員会で報告することとされた。

③平成31年度調布Pnetネットワーク運用管理業務、平成31年度調布Pnetセキュリティ管理・利用者支援等業務、平成31年度調布Pnet総合支援業務の3契約

[一般競争・価格評価方式・2回連続一者応札]

本件は調布航空宇宙センターで運用しているネットワーク(Pnet)のセキュリティ管理等の業務支援、ネットワークサービスの利用者支援等を行うもので、対象とする機器や作業範囲により、3件に分けて契約したものである。入札にあたり、業者が参加しやすいよう業務ごとに分けて競争するなどの一者応札回避策をとり、複数者の仕様書受領があったものの、結果として3件とも一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、業者側で必要な人員確保ができなかったものと想定される旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、それぞれの契約で同一業者による一者応札が続いているのであれば、業務の習熟による工数削減等のコストダウンが可能と思われるので、今後の契約にあたっては留意してほしいとの意見がなされた。

④平成 31～32 年度角田宇宙センター管理渉外等業務

[一般競争・価格評価方式・2回連続一者応札]

本件は角田宇宙センターの総務系、社屋管理系、渉外・地元調整、広報系等業務について管理業務の集約化、効率化の観点から請負化するものである。入札にあたり、競争参加資格区分の拡大等の一者応札回避策をとったが、結果として一者応札となったものである。今後は各業務の必要性の精査、効率化の検討を進め、他者ができるだけ参加しやすいよう仕様に反映させていきたい旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、業務の中でも一般的な社屋管理業務を切り離して入札すれば競争性が働いたのではないかと、関連法人との契約ということもあり今後精査が必要との意見がなされた。

また、委員から外注化したことにより、JAXA職員の業務量が削減されたとのことであるが、どの程度削減できたのかが不明であるため、定量的なデータで示してほしいとの意見があり、別途、報告することとなった。

⑤2019年度 種子島宇宙センター 液化フロンの購入

[一般競争・価格評価方式・一者応札]

本件はロケット打上げ設備で使用する配管・機器類の洗浄に使用する洗浄液（液化フロン）を購入するものであり、入札参加に際し特別な条件は求めているが、結果として一者応札となったこと。一者応札になった要因としては、種子島という離島への販路をもつ企業が限られていることや液化フロン自体が2020年1月で製造中止になることから既存取引が優先され、新規業者の参入が難しい旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、一者応札が続いているような案件であれば②の案件と同じ随意契約条項の適用ができたのではないかと意見のほか、今後予定される代替フロン購入にあたっては他事業所との一括購入等によるコストダウンについても比較検討してほしいとの意見がなされた。

以上